



# コンプライアンスと企業の環境対応

---

2006年10月5日

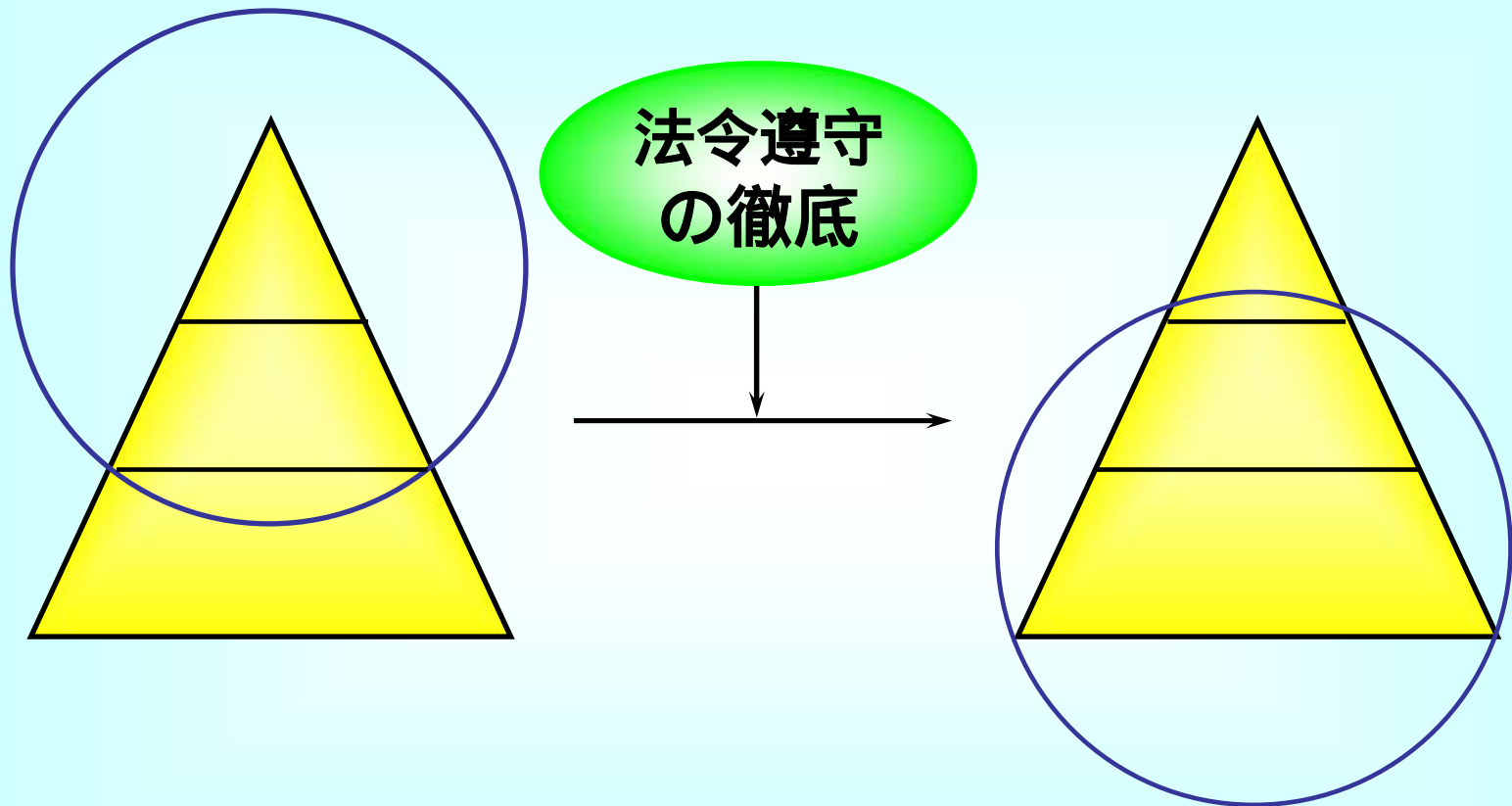
桐蔭横浜大学コンプライアンス研究センター  
郷原 信郎



コンプライアンス = 法令遵守  
の誤り

# 人の注意力には限りがある

畑村洋太郎教授による





### 3. 法令遵守コンプライアンスの 考え方の背景

**自由競争と法令遵守**の組合せですべてが解決する

企業の目的は法令に違反しない範囲で利潤を追求すること

**[前提]**

社会的要請はすべて法令に反映されている

司法が経済社会において十分に機能している



# 法令の機能とその限界

## [法令の限界]

### 絶対的限界

生命に関する問題、個人の充足度(ex.労働)、  
自然現象に関する問題

法が完全にキャッチアップすることは不可能

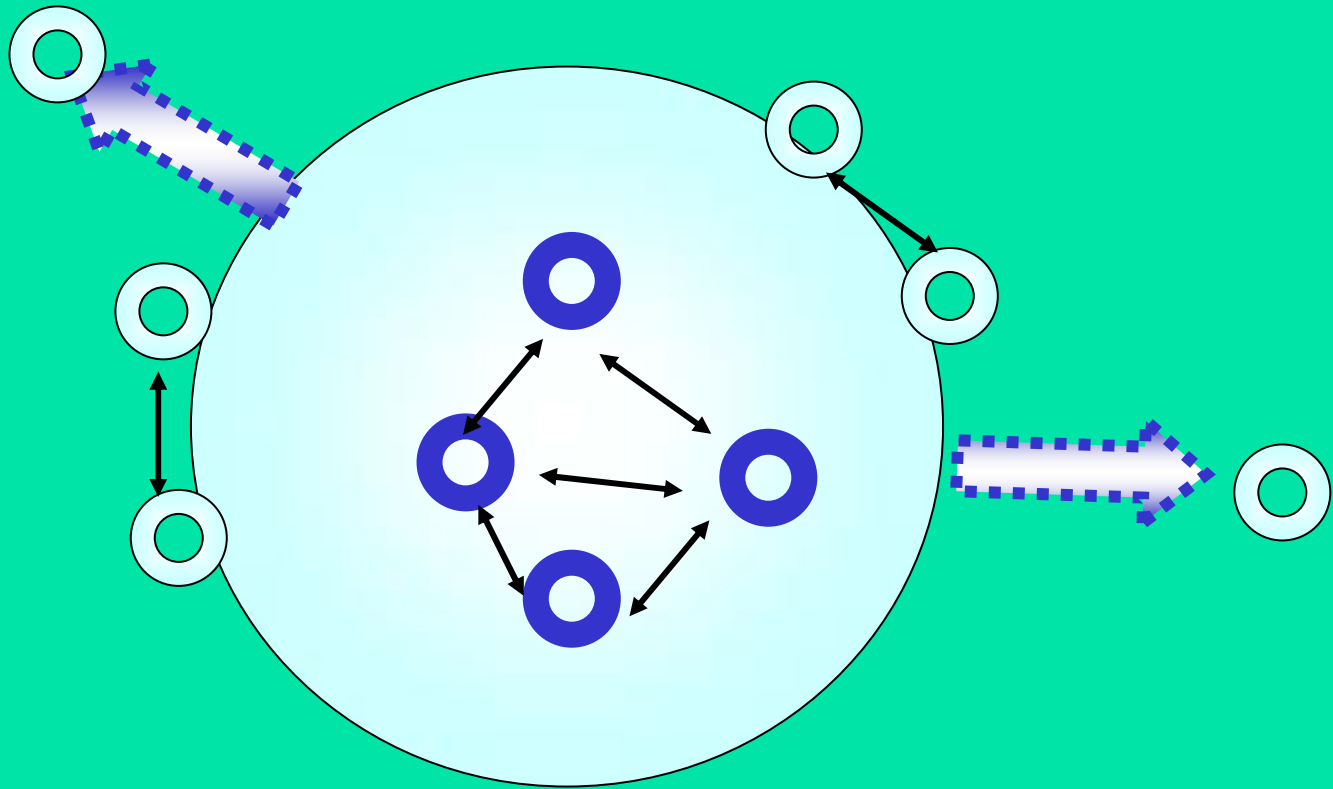
### 相対的限界

法令と社会実態との乖離      歴史的背景

日本の法律の大部分 …… 外国から輸入

明治期 …… 近代国家樹立のための富国強兵政策の一環  
第二次大戦後 …… 国家、社会、経済の全面転換

# 日本社会における司法の機能

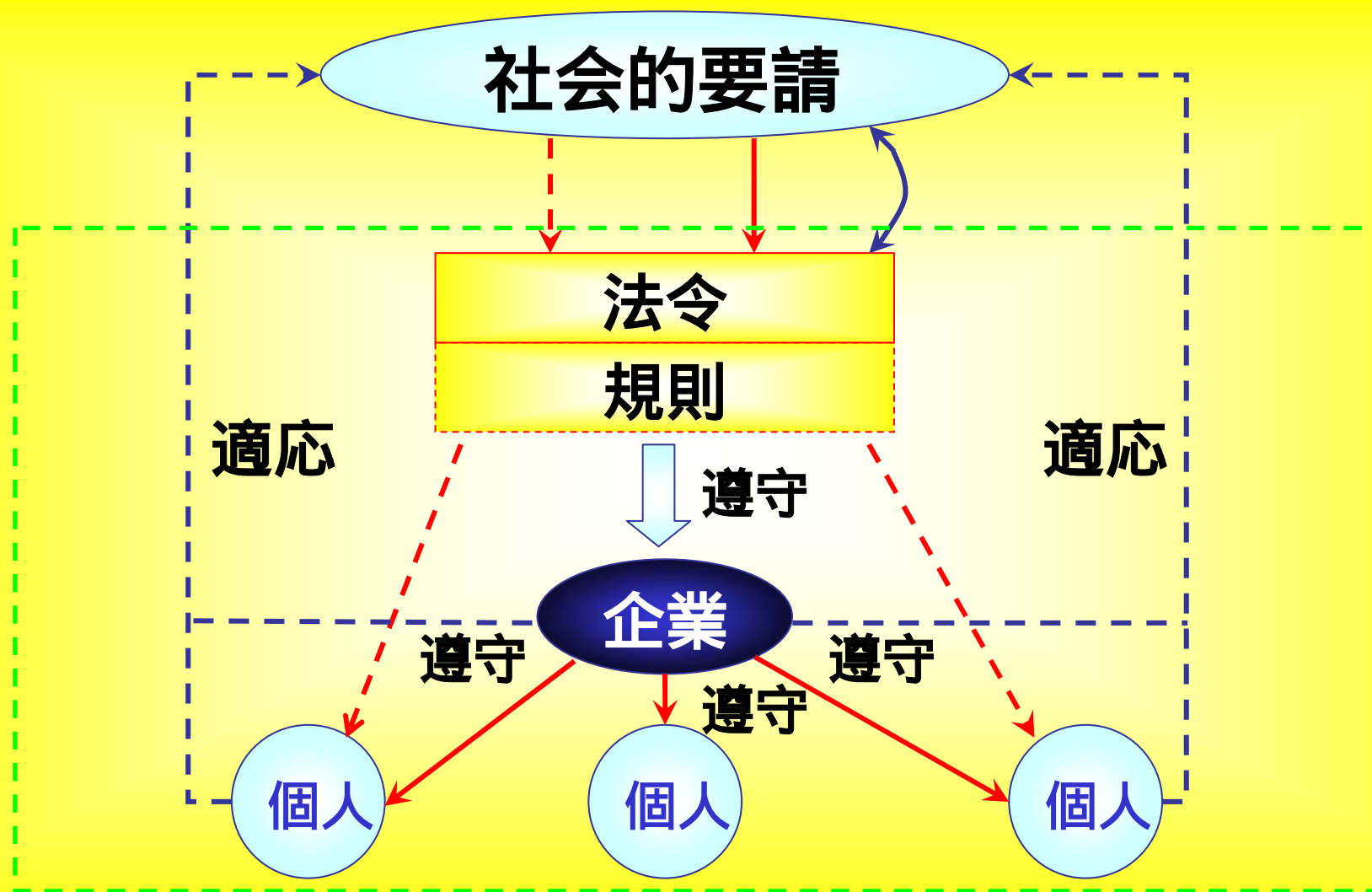




# 日米における司法の違い

	日本	アメリカ
	成文法	判例法
違憲立法審査	消極的	積極的
弁護士数 (人口10万人当たり)	15人	345人
法人に対する罰金 の上限	7億円	利益・損失にスライド
損害賠償	実額賠償	懲罰的賠償

## 6. 社会的要請と法令遵守







## 7. コンプライアンスとは

---

Complyの本来の語義  
充足する、調和する  
工学上のコンプライアンスの意味  
物体のしなやかさ

### Compliance

組織に向けられた社会的要請に応じて

しなやかに鋭敏に反応し目的を実現していくこと

社会的要請に対する鋭敏さ (*sensitivity*)

目的実現に向けての協働関係 (*collaboration*)



## 8 . フルセット・コンプライアンスの 基本的な考え方

社会的要請に組織として  
どのように適応していくか  
フルセット・コンプライアンス

### 【5要素】

方針の明確化

組織の構築

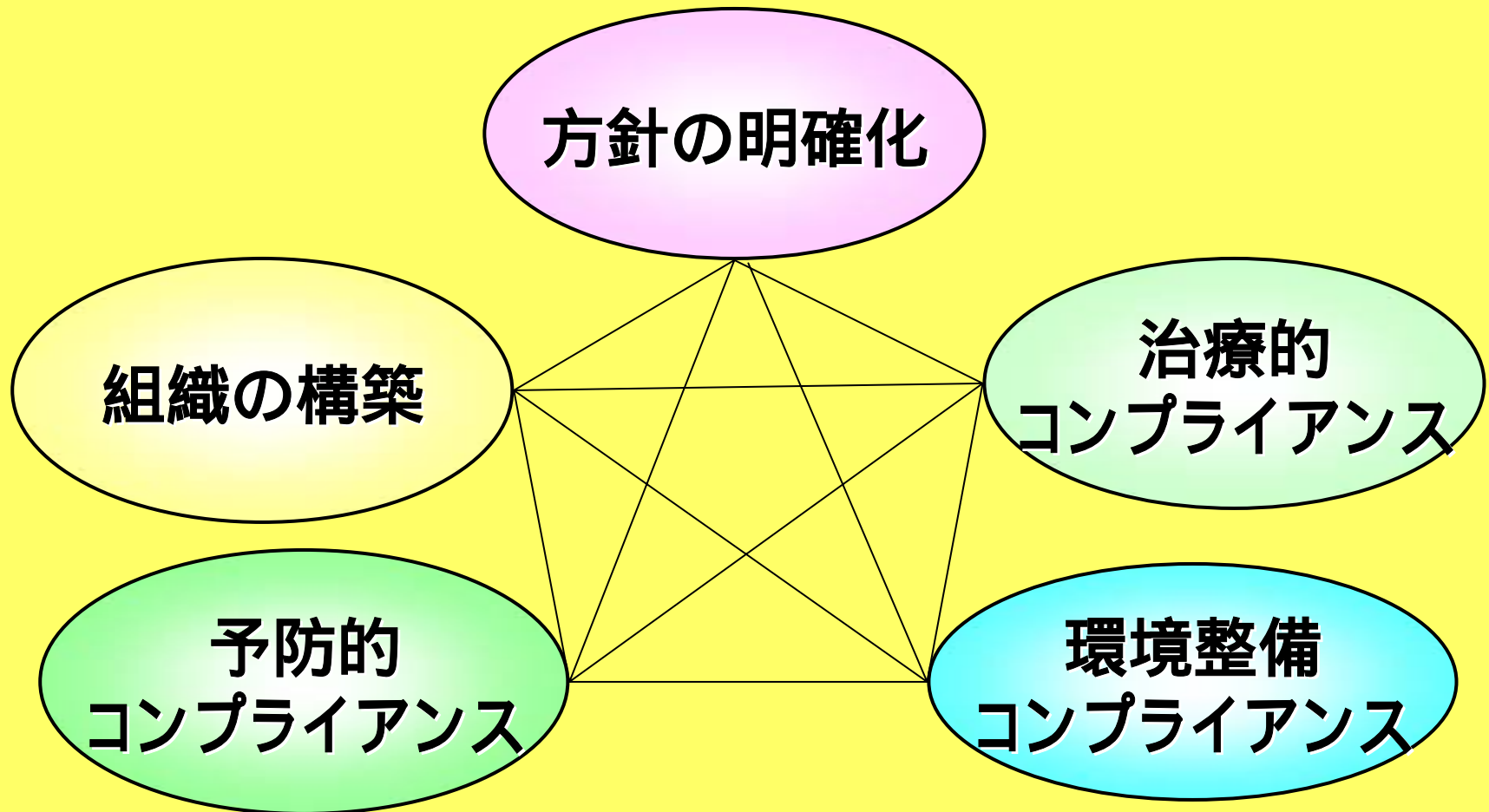
予防的コンプライアンス

治療的コンプライアンス

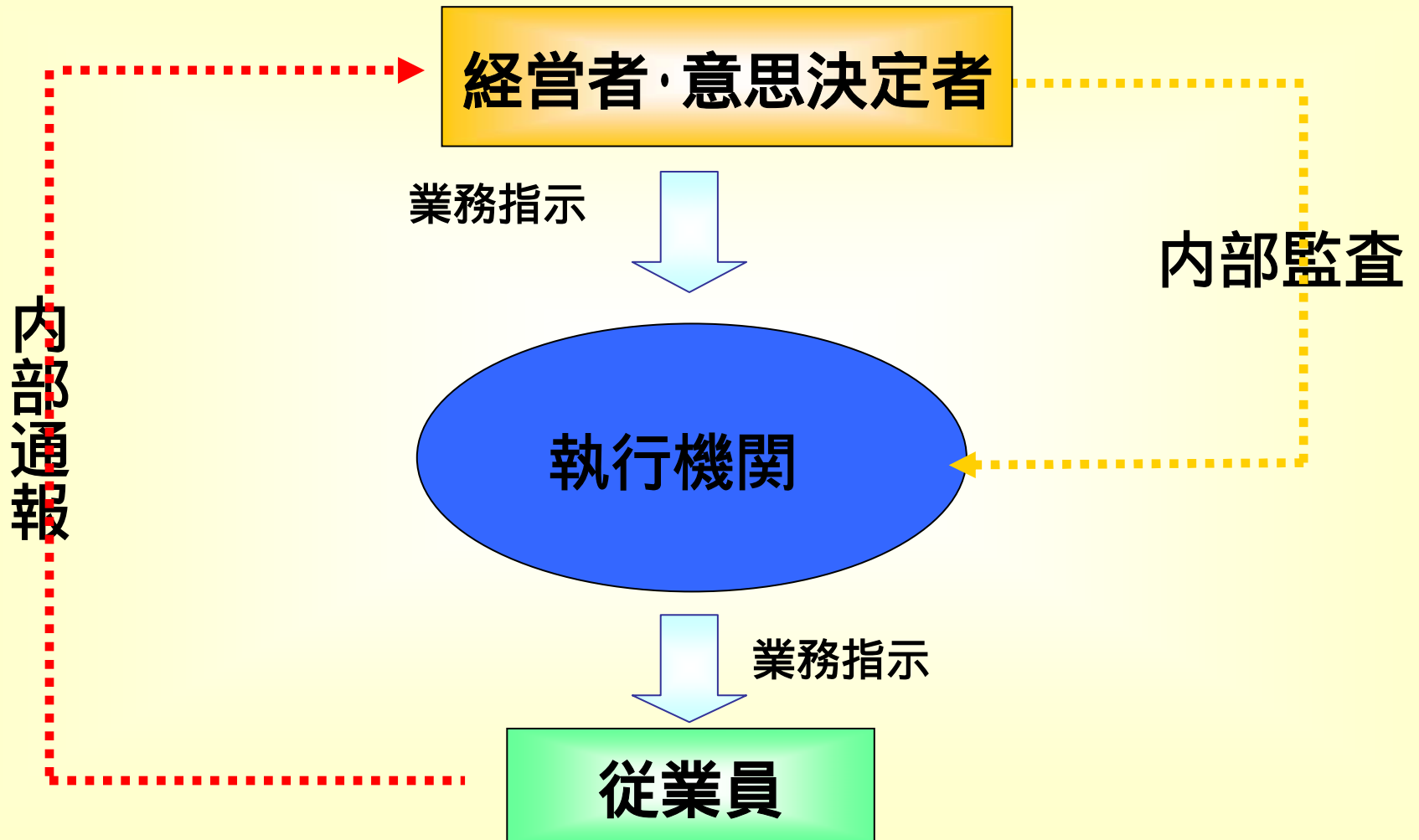
環境整備コンプライアンス

# 11. 各コンプライアンス要素の相互関係

## 5要素の相互関係



# 13. 内部監査と内部通報



## 14. ムシとカビの法則

### アメリカでの違法行為 **ムシ**

個人的利益が目的  
単発的

対処方法 個人に厳しいペナルティを科す(殺虫剤  
の散布)

### 日本での違法行為 **カビ**

組織の利益が目的

継続的・恒常的(ポストに随伴)・・・背景に構造的要因

対処方法 原因となっている構造的要因(汚れ・  
湿気)を除去

### 3. パロマ給湯器事故問題

#### 明らかになった事実

同種の給湯器による事故      20年間で死者21名

警視庁の「事故隠蔽」が原因で表面化

#### 何が起きたのか

売上の大幅減少

生産量削減      パート・アルバイトの解雇

製品の無償交換      200億円の広告宣伝費

経産省の立入検査

経営責任の追及

企業としての社会的信用を完全に失墜

# 何が悪かったのか

## 法令遵守の徹底

パロマには違法行為はなかった

20年間に発生した一酸化炭素事故による民事・刑事の責任をすべて回避 和解金を支払ったのみ

**パロマの法令遵守は万全だった**

## 問題表面化時のマスコミ対応の誤り

当初の対応・・・不正改造が原因、製品、パロマ側には問題なし、  
4日後・・・メーカーとしての責任を認めて謝罪  
不誠実さから激しい社会的非難

**20年間とってきたスタンスを1日で変えられるか**

## 16. パロマ給湯器事故問題

「25年間1200万台以上、不完全燃焼無事故の安心給湯器」

表面的には「安全重視」の方針

組織上の問題

事故のたびに警察から照会を受けたが、事故情報は上層部には報告されず

治療的コンプライアンス

修理業者による不正改造が原因、パロマに法的責任はないとして原因の究明を行わず

問題表面化後の対応

当初の対応・・・不正改造が原因、製品、パロマ側には問題なし、

4日後・・・メーカーとしての責任を認めて謝罪

マスコミ対応の悪さ、不誠実さから激しい社会的非難を受ける

根本的な問題

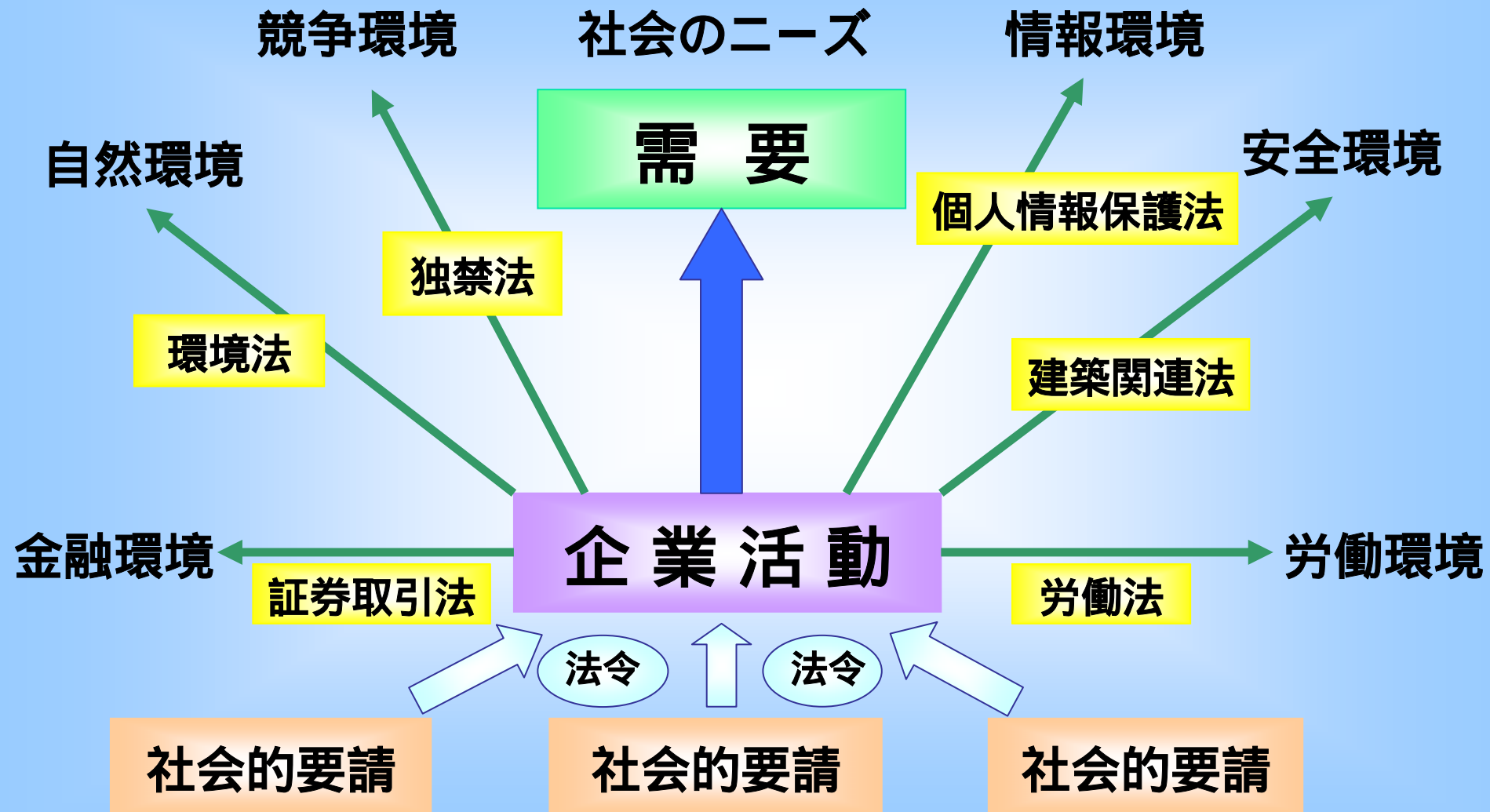
法的責任回避の姿勢      コンプライアンスの欠如

安全ブランドへのこだわりと組織のコンプライアンスとの不適合

組織としての鋭敏さ(sensitivity)の欠如



# 17. コンプライアンスと企業の社会的環境適応



## 21. コンプライアンスと環境管理問題

公害問題をめぐる一般的状況

昭和30年代～40年代 公害の社会問題化 企業の環境対策

最近は「公害」が大きな社会問題になることは少ない

アスベストなどの非定型的な「公害」 鋭敏さ(sensitivity)

二酸化炭素の排出規制などの地球規模の問題

産業廃棄物処理問題

企業活動の現場と汚染の現場との距離(他者の介在)

協働関係(collaboration)

環境管理問題

排出量に関する記録(大気汚染防止法、水質汚濁防止法)

の正確性が求められる実質的理由

正確な記録が行われていることによる「安心」の確保

事業活動による環境負荷についての記録の正確性の確保

公害発生防止とは異なった視点 経済活動と地球環境の関係

## 21. 環境管理問題の企業コンプライアンス

### 方針の明確化

環境管理を適正に行うことの社会的意義の再確認  
(「公害防止」を超えた「環境への配慮」の視点)

### 組織体制の構築・機能

#### 方針の徹底

「遵守命令」ではなく、共通認識の形成 上から下への流れ

問題状況の把握 下から上への流れ

### 問題への対応

#### 真の原因究明の必要性

(データ改ざん問題)

事実経過の詳細の把握、改ざんの動機、長期間にわたって発覚しなかった原因、社内の組織体制上の問題